



2018年3月1日
公益社団法人 日本糖尿病協会
サノフィ株式会社

日本糖尿病協会とサノフィ 糖尿病患児のよりよい学校環境作りを支援 教職員向け訪問プログラム「KiDS Project」本格始動

～教育現場における「子どもの糖尿病」に関する調査で疾患啓発のニーズが明らかに～

- 糖尿病患児に対して、「適切な対応が出来る」と回答した教職員は約7人に1人(15.3%)
- 過去に「子どもの糖尿病」について学ぶ機会があったのは約5人に1人(21.3%)

公益社団法人 日本糖尿病協会(所在地:東京都千代田区、以下「日本糖尿病協会」とサノフィ株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:ジャック・ナトン、以下「サノフィ」)は、糖尿病患児のよりよい学校環境作りの支援を目的とした、教職員向け訪問プログラム「KiDS Project」を本格始動することをお知らせします。

昨年、日本糖尿病協会およびサノフィが都内の中学校を対象に実施したパイロットケースでは、「子どもの糖尿病」について専門医や患者さんから学ぶ機会が教職員より高く評価されました。糖尿病患児数が近年増加傾向にあることを受け¹、この度、小・中学校における「子どもの糖尿病」の実態の理解を深めることを目的として、現役の小・中学校教職員 400 名を対象に「糖尿病患児の就学環境に関する実態調査」を実施しました。

調査の結果、どの学校現場でも「子どもの糖尿病」に直面する可能性がある一方で、現状では、受け入れ経験の有無によって「子どもの糖尿病」に関する認知や理解度に大きな差があることが明らかになりました。また、教職員は「子どもの糖尿病」について学ぶ意欲を持っているものの、これまでに知識を得る場が少なかった現状も浮き彫りになっています。

主な調査結果は以下の通りです。

1. 教職員の4人に1人が糖尿病患児の受け入れ経験ありー「子どもの糖尿病」は珍しくない時代にー

- ・ 小・中学校教職員の25.3%が糖尿病患児を受け入れた経験があると回答。
4人に1人が患児の受け入れを経験しており、今やどの学校現場においても「子どもの糖尿病」に直面する可能性があることが判明した。

¹ 糖尿病診療ガイドライン 2016 http://www.ids.or.jp/modules/publication/index.php?content_id=4



2. 糖尿病患者に対して、適切な対応が出来ると回答したのは15.3%。

—「子どもの糖尿病」の認知・理解度は、患児受け入れ経験の有無によって大きな開きが発生—

- ・ 「1型糖尿病」と「2型糖尿病」の違いを十分に理解しているのは全体の24.8%。
糖尿病患者の受け入れ経験のない教職員では、違いを十分に理解しているのは17.7%。
- ・ 糖尿病患者に対して「適切な対応が出来る」と回答したのは全体の15.3%。受け入れ経験がない教職員においてはわずか8%に留まった。
- ・ 「糖尿病について困らない程度の知識を持っている」と回答したのは、患児の受け入れ経験がある教職員のうち58.4%、受け入れ経験のない教職員では21.1%。
- ・ 糖尿病患者の受け入れ経験のある教職員の81.2%が「子どもの糖尿病」に関する知識を身に付ける必要性を感じているのに対し、受け入れ経験のない教職員では42.8%と大きな差が生じている。

3. 糖尿病患者の受け入れ経験者の中には、周囲の理解不足などで悩むケースも

- ・ 糖尿病患者を受け入れた経験のある教職員のうち、「悩んだ経験がある」と回答したのは21.8%。
具体的な事例としては、「周りの教職員・同僚が糖尿病に関する正確な知識や、患児への対応方法を知らなかったこと」がトップ。

4. 過去に「子どもの糖尿病」について学ぶ機会があったのは全体の21.3%に留まるものの、79.5%がセミナー参加に対して前向きな意向

- ・ 糖尿病患者の受け入れ経験のある教職員の51.5%が過去に学ぶ機会があったと回答したのに対し、受け入れ経験のない教職員においては11%に留まった。
- ・ 実際に「子どもの糖尿病」に関するセミナーが開催された場合、過去に患児を受け入れた経験のある教職員の94.1%、受け入れ経験のない教職員においても74.6%が「参加したい」と回答しており、ニーズが確かに存在することが伺える。

今回の調査結果を受け、公益社団法人日本糖尿病協会の理事長 清野裕(せいの・ゆたか/関西電力病院 総長)は次のように述べています。

「学校における糖尿病患者への適切なサポートがあれば、彼らは健常児と同じように学校生活を送ることができます。糖尿病の児童・生徒のすこやかな毎日のためには、学校そして教職員の皆さんが重要な役割を果たします。日本糖尿病協会では、先生方が糖尿病患者を受け持つ際に不安を持たれることのないよう、正しい情報の提供などを通じてお手伝いしたいと考えます」

同協会とサノフィは、糖尿病をもつ子どものよりよい学校環境作りのサポート、青年期における2型糖尿病の予防への貢献、の2つを目的として、小・中学校教職員向け訪問プログラム「KiDS Project」を本格稼働し、開催校を募集します。糖尿病の正しい知識や、糖尿病患者が学校で直面している現状を教職員の皆様に分かりやすくお伝えすることで、糖尿病の正しい理解が促進され、糖尿病をもつ子どもの自信につながる環境の醸成をめざします。

以上

日本糖尿病協会について

日本糖尿病協会は、糖尿病に関する正しい知識の普及啓発、患者及びその家族への療養支援、国民の糖尿病予防、健康増進への調査研究を行うことを目的に、1961年(昭和36年)に設立されました。現在の会員数は約110,000人。糖尿病患者とその家族、医師、看護師、栄養士などの医療スタッフ、および糖尿病に関心のある市民で組織されています。「糖尿病連携手帳」など療養に役立つ資材の制作や、糖尿病療養指導者のスキルアップ支援に注力するほか、糖尿病47都道府県の糖尿病協会と密接な連携のもと、地域社会への糖尿病啓発活動を通じて、日本の糖尿病の抑制を目指しています。

(URL: <http://www.nittokyo.or.jp> / facebook: <http://www.facebook.com/nittokyo>)



サノフィについて

サノフィは、健康上の課題に立ち向かう人々を支えます。私たちは、人々の健康にフォーカスしたグローバルなバイオ医薬品企業として、ワクチンで人々を守り、革新的な医薬品で痛みや苦しみを和らげます。希少疾患をもつ少数の人々から、慢性疾患をもつ何百万もの人々まで、寄り添い支え続けます。

サノフィでは、100カ国において10万人以上の社員が、革新的な医科学研究に基づいたヘルスケア・ソリューションの創出に、世界中で取り組んでいます。

サノフィは、「Empowering Life」のスローガンの下、ヘルスジャーニー・パートナーとして人々を支えます。日本法人であるサノフィ株式会社の詳細は、<http://www.sanofi.co.jp> をご参照ください。

別紙①: 糖尿病患児の就学環境に関する実態調査

別紙②: 日本糖尿病協会とサノフィの取り組み 小・中学校教職員向け訪問プログラム「KiDS Project」

<本件に関する報道関係者からのお問合せ先>

サノフィ「KiDS Project」PR 事務局 (株式会社ブレインズ・カンパニー内) 担当: 柴田 / 上田
TEL: 03-3568-3844 FAX: 03-3568-3838 E - MAIL: shibata@pjbc.co.jp / ueda@pjbc.co.jp



<別紙①>

【糖尿病患児の就学環境に関する実態調査】

概要

実施時期	2017年12月
調査方法	インターネット調査
調査対象	全国の現役の小・中学校教職員400名(小学校200名/中学校200名)
有効回答数	400名
調査委託先	楽天リサーチ株式会社

調査結果

(1) 教職員の4人に1人が糖尿病患児の受け入れ経験ありー「子どもの糖尿病」は珍しくない時代にー

- 小・中学校教職員の25.3%が、糖尿病の児童・生徒が「現在、在学している」もしくは「現在は在学していないが、過去に在学していた」と回答。4人に1人が患児の受け入れを経験しており、今やどの学校現場においても「子どもの糖尿病」に直面する可能性があることが判明した。

Q. あなたが所属する学校に、糖尿病の児童・生徒は在学していますか。

		n	現在、在学している (%)	現在は在学していないが、過去に在学していた (%)	在学していない/過去に在学していたことがない (%)	わからない (%)	糖尿病患児在学経験あり (%)
全体		400	10.25	15.00	48.00	26.75	25.25
年代	20-30代	92	10.87	18.48	48.91	21.74	29.35
	40代	88	11.36	12.50	47.73	28.41	23.86
	50代	177	9.04	14.69	53.11	23.16	23.73
	60代	43	11.63	13.95	25.58	48.84	25.58

(2) 糖尿病患児に対して、適切な対応ができると回答したのは15.3%。

ー「子どもの糖尿病」の認知・理解度は、患児受け入れ経験の有無によって大きな開きが発生ー

▼「1型糖尿病」「2型糖尿病」の各病型に関する理解度

- 全体の72.8%が発症傾向や対応方法の異なる「1型糖尿病」と「2型糖尿病」の存在を認知しているものの、違いを十分に理解しているのは24.8%。糖尿病患児を受け入れた経験のない教職員では、17.7%に留まっている。

Q. あなたは、「1型糖尿病」と「2型糖尿病」の違いを知っていますか。

		n	違いを十分に理解している (%)	1型糖尿病と2型糖尿病が存在することは知っているが、違いはわからない (%)	1型/2型いずれか非認知 (%)	いずれか認知 (%)
全体		400	24.75	48.00	27.25	72.75
糖尿病患児・生徒在学経験	在学経験あり計	101	45.54	45.54	8.91	91.09
	現在在学	41	56.10	41.46	2.44	97.56
	過去在学	60	38.33	48.33	13.33	86.67
	在学経験なし/わからない	299	17.73	48.83	33.44	66.56

(参考)

1型糖尿病: すい臓のβ細胞が破壊され、インスリンがほとんど分泌できなくなるタイプ。子どもや若い人に多くみられる。

2型糖尿病: インスリンの分泌量が不足したり、働きが悪くなるタイプ。おもに40歳以降にみられるが、若年発症も増加している。



▼糖尿病患児に対する適切な対応方法の理解度

- 糖尿病患児に対する適切な対応方法を理解しているのは、全体の**43.8%**。年代別では受け入れ経験率の高い20~30代の理解度が最も低い数値となった。また、「適切な対応が出来る」と回答したのは全体の**15.3%**であり、受け入れ経験がない教職員においてはわずか**8%**に留まった。

Q.あなたは、糖尿病患児に対して、適切な対応方法を理解していますか。

		n	■ 患児に対する適切な対応方法を理解しており、対応もできる	■ 患児に対する適切な対応方法は理解しているが、対応できるかはわからない	■ 患児への適切な対応方法はわからない (%)	対応方法理解計 (%)
全体		400	15.25	28.50	56.25	43.75
年代	20-30代	92	9.78	20.65	69.57	30.43
	40代	88	14.77	29.55	55.68	44.32
	50代	177	17.51	32.77	49.72	50.28
	60代	43	18.60	25.58	55.81	44.19
糖尿病 児童・生徒 在学経験	在学経験あり計	101	36.63	44.55	18.81	81.19
	現在在学	41	53.66	34.15	12.20	87.80
	過去在学	60	25.00	51.67	23.33	76.67
	在学経験なし/わからない	299	8.03	23.08	68.90	31.10

▼「子どもの糖尿病」に関する自身の知識

- 「子どもの糖尿病」について、患児の受け入れ経験がある教職員の**58.4%**が「困らない程度の知識を持っている」と回答しているのに対して、受け入れ経験のない教職員で知識を持っているのは**21.1%**。受け入れ経験の有無によって大きな開きが発生している。
 - 糖尿病患児の受け入れ経験のある教職員の**81.2%**が「子どもの糖尿病」に関する知識を身に付ける必要性を感じているのに対し、受け入れ経験のない教職員では**42.8%**と大きな差が生じている。知識の必要性を感じる理由としては、知識を得ることで「患児や保護者に適切な対応や向き合い方をすることができる」、「突発的なトラブルが起こった際、適切に患児のケアや対応ができる」などが挙げられた。

Q.「子どもの糖尿病」に関するご自身の知識は十分だと感じますか。

		n	■ 十分な知識があり、困っていることはない	■ 十分とは言えないが、日常的に困らない程度の知識は持っている	■ 知識が足りないと感じるため、積極的に情報収集を行っている	■ 知識が足りないと感じるが、特に情報収集は行っていない/何か始めて良いかわからない (%)	知識あり計 (%)
糖尿病 児童・生徒 在学経験	在学経験あり計	101	8.91	49.50	16.83	24.75	58.42
	在学経験なし/わからない	299	1.00	20.07	13.04	65.89	21.07

Q.あなたは、「子どもの糖尿病」に関する知識の必要性を感じますか。

		n	■ 必要性を感じており、既に授業や生徒指導に取り入れている	■ 必要性を感じており、情報収集を行っている	■ 必要性を感じているが、特に何も実践していない	■ 今後も患児が入学することがあれば検討するが、今は必要性を感じていない	■ 必要性を全く感じていない (%)	必要性を感じる計 (%)
糖尿病 児童・生徒 在学経験	在学経験あり計	101	7.92	37.63	35.64	18.81		81.19
	在学経験なし/わからない	299	1.00	12.38	29.43	46.15	11.04	42.81

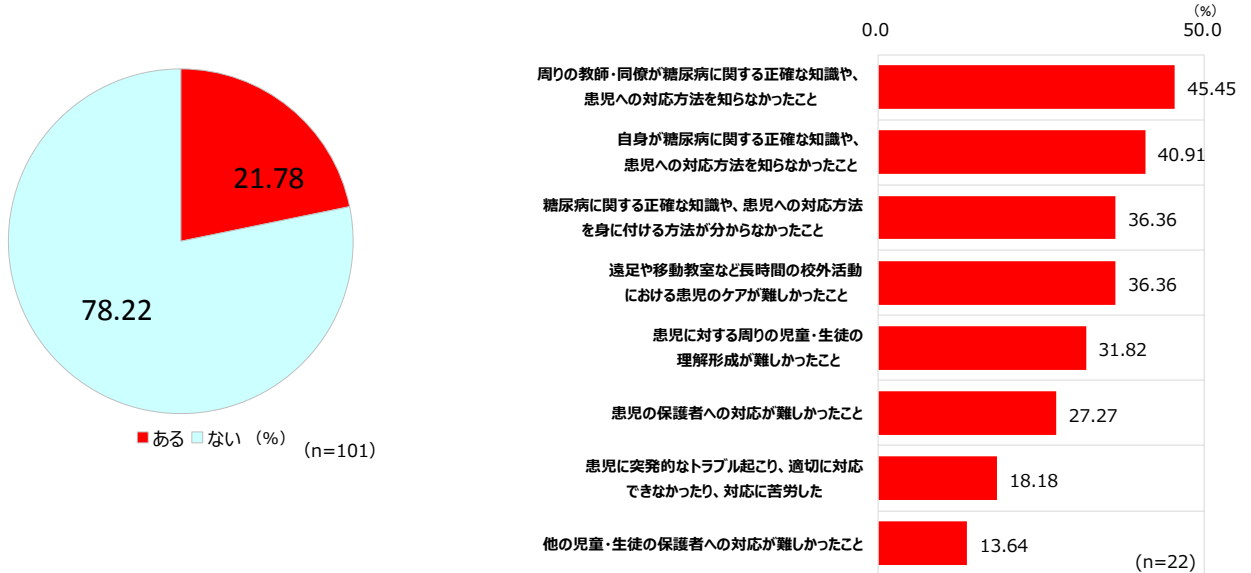


(3) 糖尿病患児の受け入れ経験者の中には、周囲の理解不足などで悩むケースも

- 糖尿病患児を受け入れた経験のある教職員のうち、「悩んだ経験がある」と回答したのは**21.8%**。具体的には「周りの教職員・同僚が糖尿病に関する正確な知識や、患児への対応方法を知らなかったこと」がトップになっており、担任や養護教諭のみならず、学校全体で糖尿病の知識を高めていくことが必要であると考えられる。

Q.糖尿病患児に関連して、実際に悩まれたことや困ったことはありますか。

Q.ご自身が実際に直面した悩みや困ったことについて、あてはまるものをお答えください。



(4) 過去に「子どもの糖尿病」について学ぶ機会があったのは全体の**21.3%**に留まるものの、**79.5%**がセミナー参加に対して前向きな意向。

- 糖尿病患児受け入れ経験のある教職員の**51.5%**が過去に「子どもの糖尿病に関して学ぶ機会があった」と回答しているのに対し、受け入れ経験のない教職員については**11%**に留まっている。
- 実際に「子どもの糖尿病」に関するセミナーが開催された場合、患児受け入れ経験のある教職員の**94.1%**、受け入れ経験のない教職員においても**74.6%**が「参加したい」との意向を示しており、ニーズが確かに存在することが伺える結果となった。

Q.これまでに「子どもの糖尿病」に関して学ぶ機会がありましたか。

	n	割合 (%)		
		あった	なかった	覚えていない
全体	400	21.25	70.00	8.75
糖尿病 児童・生徒 在学経験	在学経験あり計	51.49	40.59	7.92
	在学経験なし/わからない	11.04	79.93	9.03

Q.「子どもの糖尿病」に関するセミナーがあれば参加したいと思いますか。

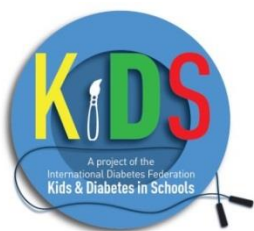
	n	割合 (%)				参加意向計 (%)
		校内で開催されれば積極的に参加したい	校外セミナーでも積極的に参加したい	都合があえば参加したい	参加したいと思わない	
全体	400	19.25	8.00	52.25	20.50	79.50
糖尿病 児童・生徒 在学経験	在学経験あり計	32.67	11.88	49.50	5.94	94.06
	在学経験なし/わからない	14.72	6.69	53.18	25.42	74.58



<別紙②>

【日本糖尿病協会とサノフィの取り組み】

小・中学校教職員向け訪問プログラム「KiDS Project」



<概要>

糖尿病の子どもをサポートし、学校に通う子どもたちに健康的なライフスタイルを啓発するため、国際糖尿病連合 (IDF) と国際小児思春期糖尿病学会 (ISPAD)、サノフィ・グループが 2013 年 9 月に「KiDS Project」を立ち上げました。



日本では、日本糖尿病協会とサノフィが協同し、訪問プログラムと充実した情報資材を通して、糖尿病をもつ子どものよりよい学校環境をサポートすること、青年期における 2 型糖尿病の予防に貢献することを目的に活動しています。訪問プログラムでは、専門医とインスリンメンター(*)が全国の学校に伺い、糖尿病の正しい知識や、糖尿病の患者さんが学校で直面している現状を教職員の皆様にお話しします。

<KiDS Project の特徴>

▼講師は糖尿病の専門医

・糖尿病に精通した専門医が、糖尿病に関する正しい知識をお伝えします。

▼インスリンメンター(*)による体験談

・糖尿病患者の方が実際に直面した現状の問題など、体験談を紹介します。

▼充実した内容の情報ツール

・「教職員」「子ども」「一般の保護者」「糖尿病の子を持つ保護者」それぞれの視点から糖尿病について学ぶことができる KiDS Project オリジナルの「学校用糖尿病情報パック」をはじめ、さまざまな情報ツールを使用します。

・1 型、2 型それぞれの糖尿病の基礎知識はもちろんのこと、教職員として知っておいていただきたいことや、糖尿病を持つ子どもの学校での管理に関するガイドラインをわかりやすく説明しています。

▼日本全国の学校へ訪問します。



「KiDS Project」訪問プログラム 募集要綱

■時期：2018年3月～12月頃まで ※日程をご相談ください。応募者多数の場合は抽選となります。

■場所：全国の小・中学校 ※講師が学校に伺い、訪問プログラムを実施します。

■時間：約 70 分 ※開催時間及び所要時間はご都合に応じて調整いたします。

■定員：なし ※教職員の皆様にご参加いただけます。

■料金：無料

■URL:https://www.nittokyo.or.jp/modules/about/index.php?content_id=40

<「KiDS Project」訪問プログラムのお申込み・お問い合わせ>

公益社団法人 日本糖尿病協会 担当:堀田 (受付時間:9:00~17:00)

TEL :03-3514-1721/FAX :03-3514-1725/MAIL:office@nittokyo.or.jp

*日本糖尿病協会は、2015年より患者が患者を支援するピアサポートの取り組みとして、インスリンメンター制度を展開しています。インスリンメンターは、自らの経験をもとに、後輩患児のサポートや社会への糖尿病啓発を行います。